



JIM-NET 便り



7月号 2021年7月30日



NEWS

アブサイドとイブラヒムが見届けたコロナ禍の子どもたち……………齊藤亮平（海外事業担当）P2
 現地スタッフから：北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol.4……………ヒワ（アルビル現地スタッフ）P4
 クラウドファンディングへのご協力ありがとうございました！シリア国内緊急支援のご報告…牧野アンドレ（アルビル駐在員）P5
 COFFEE for PEACE!……………崔麻里（広報・イベント担当）P7
 よし 葦でつながる日本とイラク～石巻とアル・クルナの子どもの交流～……………西村陽子（アラブの子どもとなかよくする会）P8
 JIM-NETの新しいスタッフを紹介します……………長谷部貴俊（海外事業担当）P8



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

特定非営利活動法人 JIM-NET（ジムネット）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C

電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net





アブサイドとイブラヒムが見届けたコロナ禍の子どもたち

斉藤 亮平（海外事業担当）

3月初旬、バグダード事務所のアブサイドとバスラ事務所のイブラヒムが約1年半ぶりにアルビル事務所を訪れ、今回も新型コロナウイルスの影響で開催することができなかったJIM-NET会議の代わりに各地域での活動報告やスタッフ間での情報交換を行いました。新型コロナウイルスの影響で3日間という短い滞在となりましたが、JIM-NETの元気印と言うべく2人の来訪に、いつも以上に賑わったアルビル事務所でした。

■バグダード・バスラの活動報告

バグダード、バスラにおいてはアルビル同様、20年度は新型コロナウイルスの影響により、これまでにない厳しい事業運営となりました。

バグダードでは、4月初旬の段階から感染が拡大し、厳しい外出制限や他県を跨ぐ移動の禁止が発令されました。バグダード中央小児教育病院では、6月に30名ほどの医療従事者が院内で感染し、病院の機能が一時制限される事態に見舞われました。

バスラでも同様の外出制限が出され、バスラ子ども病院においては医療従事者の院内感染だけでなく、入院中の5歳の子どもの感染も確認される事態となり、こちらも6月中旬に外来診療が一時ストップするなど、病院が大きく混乱しました。

2つの病院では、慢性的に医薬品や医療用品が不足しており、新型コロナウイルス流行直後はマスクや防護服、消毒液などが一気に不足し、院内感染を恐れて治療に訪れない子どもたちが増加しました。

また、昨年実施したクラウドファンディング「イラクの病院の医療崩壊を防ぎたい！ #イラクにマスクを」



バグダードの活動報告をするアブサイド

での迅速な支援に対し、改めて両スタッフからご支援くださった皆さまに感謝の言葉が伝えられました。

両スタッフは移動制限がある中、通行許可書を取得し、院内学級や貧困患者支援をコロナ禍でも止めることなく実施してきました。

そんな状況の中、昨年度両スタッフが病院で最期を見届けた子どもたちのことを紹介します。

■絵を描くことが大好きだったファルカーン（バグダード）

つい先日、バグダード中央小児教育病院でファルカーンという女の子が亡くなりました。13歳でした。彼女はアンバール県ファルージャで生まれ育ちました。しかし2015年、過激派組織ISISとの闘いで暮らしていた町の多くが破壊され、住んでいた家も失った一家は引っ越しを余儀なくされました。お父さんも仕事を失い、苦しい生活を送る中、ファルカーンは、急性リンパ性白血病と診断されました。骨髄移植が必要となった彼女は、イラク保健省からの支援で骨髄移



ファルカーン（左）とアブサイド（右）

植手術のためトルコへ。兄の骨髄を移植する手術自体は成功しましたが、その後ウイルス性肝炎を発病し、投薬治療が開始されました。

手術後、イラクに戻ったファルカーンですが、肝炎の抗ウイルス薬が高価だったため、投薬を中断してしまいました。次第に体調は悪化し、2020年3月には白血病の再発も確認され、バグダード中央小児病院で治療を再開することになりました。彼女は絵を描くことが大好きで、体調が良い時はいつも絵を描いていました。

「ファルカーンは絵を描いてる時は、いつも嬉しそうにしていたよ。彼女は私の似顔絵も描いてくれる約束もしてくれていたんだ」と話すアブサイド。いつも近くで彼女のケアにあたっていたアブサイドは、彼女の突然の死に大きなショックを隠し切れなかったと言います。

■ 貧困と病の中で生きたザイナブ（バスラ）

ダウン症のザイナブは2008年、マイサーン県アマラ市カハラ村で生まれました。カハラ村は、電気や水道といったインフラがほとんど整っていない貧困層が多く住むエリアでした。そんな中、2017年に彼女のお父さんが急死、収入源がお母さんの絞る牛乳の売り上げのみとなり、より貧しい生活へと変わってい



ザイナブ（左）とお母さん（右）

きました。

2019年10月にアマラ市立病院にて白血病と診断されましたが、貧困と大規模デモによる道路の封鎖が原因で病院に行くことができませんでした。

2020年4月、ようやくバスラ子ども病院で治療を開始することができましたが、治療のために病院に行くことも容易ではありません。病院までの道のりは約3時間30分（約270km）、100米ドルの交通費がかかりました。JIM-NETでは抗がん剤支援や交通費の支援を通し、彼女の治療を支えてきましたが、2020年5月、ザイナブは病院で息を引き取りました。12歳でした。

亡くなる1週間ほど前から、彼女の母は日に日に弱るザイナブに「神のご加護がありますように……。ずっと貧しくて辛い思いをさせてきたね。最愛の娘、愛してるわ」と言って、そっと抱きしめていたと言います。彼女のお母さんは「JIM-NETからの支援のおかげでここまで頑張ることができた。心から感謝します」と言葉を残したそうです。

「貧困層が多いにも関わらず、そういった人々へのケアが全くない状態がずっと続いている。貧困と病気に苦しむ子どもやその家族へのケアを国としてもってやってもらいたい。彼女たちの痛みを思うと言葉がない」と、イブラヒムは今まで亡くなった多くの子どもたちを思い返しつつ、言葉を詰まらせました。





アルビル、バグダード、バスのスタッフが一堂に会してランチタイム

バグダード、バスでも貧困患者支援を継続して実施しています。しかし医薬品購入まで及ばず、交通費支援で予算を使い切ってしまうことが少なくありません。

保健行政の力で解決していくべき課題が多いことも確かです。しかし、ファルカーンやザイナブのように貧困と病気に苦しむ中、死んでいく子どもたちを一人でも減らしたいとアブサイドやイブラヒムも口を揃えます。治療の遅れや治療の放棄を防ぐべく、これか

らも皆さんのお力をお借りしながら子どもたちの命を守る活動を行っていきたいと考えております。

また、両スタッフは「貧困患者支援や医薬品支援で守られている命もある。日本の皆さんに最大の御礼を申し上げます。いつもありがとうございます。これからも子どもたちと一緒に守ってください。そして神が皆様をお守りするように祈っています」と何度も私にそう伝えてくれました。

引き続き、JIM-NET への応援やご支援をよろしくお願い申し上げます。



アブサイド（左）とイブラヒム（右）

★現地スタッフから★ 北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol.4

こんにちは。私はヒワといいます。

アルビルで生まれ育ち、妻と1歳になる息子の3人で暮らしています。私は医師として働いていて、現在は精神科医となるための勉強もしています。

JIM-NET で2017年から働きはじめました。医師としての仕事の経験を活かし、医薬品の支援や他のプロジェクトでも医薬品や医療に関わる際には、スタッフにアドバイスをしています。私はイラクの病院の看護師に対する研修プロジェクトも担当していますが、講師の先生に緊急の手術が入り幾度か延期になってしまったことがあり、この仕事の大変さを痛感しました。

また、JIM-NET で働いていて一番嬉しかった瞬間は、JIM-NET ハウスの開所式です。この施設をベースに、これから多くのイラクの小児がん患者たちを助けるのだと、身が引き締まった思いがしたのを覚えて

います。

最後に、JIM-NET をご支援くださっている皆さんに感謝の気持ちを伝えさせてください。

皆さんは子どもたちを助けることを通して、人類のために多大なる貢献をしてくださっています。

これからもご支援、どうぞよろしくお願いいたします。



クラウドファンディングへのご協力ありがとうございました！

シリア国内緊急支援のご報告

牧野アンドレ（アルビル駐在員）

コロナ禍とインフレで苦境にあるシリアへ医薬品を届けるためのクラウドファンディング「**#シリアを忘れない**」を2月に呼びかけ、140万円の目標を上回る約183万円のご支援をいただきました。

クラウドファンディング終了後の3月3日から、自身も紛争下でイラクへ逃れてきたシリア人スタッフのチームが、諸経費を除いた約160万円分の麻酔薬や血糖降下剤、抗生物質などの医薬品やコロナ感染対策の個人防護具を、シリア国内の避難民キャンプや、コロナ治療専門病院に届けましたので、ご報告いたします。

シリア国内の生活状況は残念ながら年々悪化しています。「生活は紛争が始まってからの10年で一番苦しい」という言葉を、今回の渡航ではよく耳にしました。

未だに約550万人のシリア人が周辺国で難民として暮らし、シリア国内でも約620万人が避難生活を強いられています。

JIM-NETでは2014年より、イラク国内のダラシャクラン難民キャンプでシリア難民の妊産婦支援や医療支援を行い、2016年からはシリア国内への緊急支援を続けてきました。

私たちが支援を続けるシリア北東部では、経済制裁の影響による物価高騰、トルコ軍による水源地帯占領の影響で都市インフラが崩壊しており、さらに新型コロナウイルスが追い打ちをかけています。



購入した個人防護具の前で。スタッフのチーム

【ハサカ市内】

ハサカ市内では、一日に4～5時間しか電気が通じず、パンを買うために朝から夜まで長蛇の列に並び、やっと少しのパンにありつけるという生活です。公務員でさえも月給が2,500円くらいまで下がっている人もおり、物価の高騰が市民への逆風となっています。

【ワショカニ難民キャンプ】

ハサカ市郊外のワショカニ難民キャンプを訪問した日は、周辺に駐留している米軍による食糧の配給がありましたが、建設された2019年末から一向に生活環境は改善されていません。トイレや炊事場も共用で、医薬品の他にも生活全般に関わる物資の支援が足りておらず、テントも補修されないまま使われ続けています。雨の多く降る冬場には、テントへの浸水も大きな問題となっています。



ワショカニ難民キャンプ

【サリカニ難民キャンプ】

2020年夏に開設されたばかりのサリカニ難民キャンプでも、人口の増加が顕著になっています。都市へのアクセスがよく、国連や国際NGOも支援に入り始めています。

キャンプ内にはユニセフが運営する小・中学校があ

り、トイレや炊事場も各家庭のテント横に設置され始めていました。

キャンプで暮らす女性は、2019年の冬、お昼の準備をしていたところ、突然トルコ軍による空爆が始まり、砲弾が住んでいた村にも着弾し、着の身着のままに車に乗って家族とハサカ市に避難したことを語ってくれました。その後、息子さんがドイツに難民として移住し、現在は彼の仕送りを頼りに生活を送っているそうです。



サリカニ難民キャンプ

【アルホール難民キャンプ】

他のキャンプに比べて知名度があることから、国連や国際NGOの支援が比較的に入っています。最近ではキャンプ内に病院も建設されました。ただし、外国籍の過激派組織ISISの家族が殺人事件などを起こしていると度々報告されており、急激な治安の悪化が憂慮されています。

今回、セキュリティの関係上、キャンプへの入域は叶いませんでしたが、パートナーであるクルド赤新月社が責任をもって医薬品を届けてくれました。

【COVID-19 赤新月社病院】

ハサカ市内唯一の新型コロナ治療専門病院である赤新月社病院の院長によると、「一時期は感染を抑え込めていたが、ここ数日で急に感染者の数が増えている」とのことでした。

現在、赤新月社病院では、患者の適切な隔離や医療従事者の保護を行っています。さらに新型コロナに関する感染予防の教育チームに加え、退院後のフォローアップを行うチームも存在し、市民を新型コロナから

守るよう努めているとのことでした。



COVID-19 赤新月社病院内部

【ラッカ訪問】

2年前にできたラッカ郊外にあるマハムデリー難民キャンプを訪問しました。キャンプ内の医療サービスは厳しい状態が続いており、今後も赤新月社を通じての支援を検討しております。

* * *

2016年より年に1度、細々とですが、シリア緊急支援を続けております。今回はクラウドファンディングに予想以上のご支援をいただき、お陰さまで例年以上の医薬品を届けることができました。クルド赤新月社の関係者やシリアの人たちから、ご支援くださった皆さまに本当に多くの感謝の言葉をいただきました。

状況は悪化しているにもかかわらず、国際社会のシリアへの関心は年々減っていると言わざるを得ません。そのような中、たくさんのご支援をいただきましたことを改めて厚く御礼申し上げます。

「シリアを忘れてはいない」という日本の皆さんの想いを、今回の支援を通してシリアの皆さんに橋渡しすることができたかと思います。

今後もシリア国内への支援を、少しずつですが継続して参ります。どうぞ引き続き応援いただけますようお願い申し上げます。





COFFEE for PEACE!



崔 麻里（広報・イベント担当）

JIM-NET 東京事務局はスモールサイズ。各スタッフがいくつもの役目を担って常にドタバタしているので、ついつい目の前の業務に翻弄され、時間をかけて考えを膨らませていくことが疎かになりがちです。ところが、昨年4月に発令された緊急事態宣言を受け、初めて実施した2か月間のリモートワークのおかげで貴重な「時間」が生まれました。

新型コロナウイルスの拡大という前代未聞の世界的な緊急事態は、先のことが全く見通せず、現地での活動は勿論、活動の資金となる募金の行方も予想が困難で気持ちが焦りと不安でいっぱいとなりました。そんなマイナス思考から脱却しなくては…！

そんな折に再読した新聞のインタビュー記事は、私がJIM-NETとかかわる以前に出会って以来、ずっと心に残っていたものです。インタビュー記事のタイトルは『『宝探し』の不思議な店を演出』。こだわりのコーヒー豆や輸入食品を販売するカルディコーヒーファームを運営する株式会社キャメル珈琲代表の創業から現在に至るまでのストーリーは、共感する部分と学ぶ点が多かったのです。

在宅勤務の時間を活かし、この記事を読んだ感想とJIM-NETの活動、私たちの宝ものである子どもたちの絵についてお手紙に綴り、チョコ缶（賞味期限を過ぎ



ていたため、空き缶ではありましたが）とともにお送りしました。決して「営業」ではなく、インタビュー記事で感じた思いとJIM-NETのことをお伝えしただけなのですが、「何かお役に立つことができれば」とお声かけ頂く運びとなったのです。

カルディコーヒーファームのオリジナルコーヒーでご協力下さる！思いがけないお申し出を受け、感謝と緊張の思いとともにコロナ禍で治療を続ける子どもたちと現地スタッフたちの喜ぶ顔が目に見えびました。

そんな訳で、JIM-NET ×カルディコーヒーファームドリップコーヒー「Coffee for Peace！」の準備が始まりました。今回の取り組みで一番の目玉は、イラクとシリアの子どもたちの絵がドリップコーヒーのパッケージに印刷されていることです。株式会社キャメル珈琲のご提案で、子どもたちの絵をパッケージデザインに活かして下さい、絵を描いた子どもたちのプロフィールも裏面に記載されております。

こうして誕生した「Coffee for Peace！」は、JIM-NETのHP、または事務局へのお電話でご注文いただけます。ドリップコーヒーを通してイラクとシリアの子どもたちの息遣いを感じて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、「Coffee for Peace！」にかかわって下さっている株式会社キャメル珈琲の皆さまに心から御礼申し上げます。



葦でつながる日本とイラク ～ 石巻とアル・クルナの子どもたちの交流 ～

西村陽子（アラブの子どもとなかよくする会）

JIM-NET 設立当初、イラクに入国できないために隣国ヨルダンの首都アンマンに事務所を置き、「アラブの子どもとなかよくする会」と協働して活動しました。

西村さんは、東日本大震災後、石巻緊急支援の仮設風呂では JIM-NET の駐在スタッフとして活動を支援してくださいました。

東日本大震災後、石巻市湊小学校避難所に JIM-NET が設営したお風呂が「希望の湯」です。約半年間に延べ2万人を超える石巻の住民さんやボランティアが、汗を流しにやってきました。私は、その活動に携わったことをきっかけに、石巻に住むようになりました。

北上川の河口地域には、何キロも続く葦原があります。「イラクみたいなどころ（アル・アフワール地方の湿原）」があるのです。震災間もない頃、葦原には大量のがれきや大川小学校付近から 500 メートルも上流に押し流された橋の橋脚が残っていました。北上川の葦を材料にした葦紙も、関わっていた人たちもみんな、津波に持っていかれたと言います。

2017 年、住民の方たちと再び葦紙を作り、イラクの家族の手作りカレンダーにもその紙を使うようになりました。

昨夏、このカレンダーのことを知った地元子ども新聞の中学生記者が、イラク南部の町アル・クルナの子どもたち 10 人に Zoom でインタビューし、「手すきの葦紙でイラクの子どもたちを支援できないか」と提案してくれました。カレンダーに使う葦紙を手漉きすることになり、学童クラブの子どもやお母さんたち、さらには、SDGs の

学習に取り組む小学校が参加して、300枚を超える葦紙ができました。

小学 5,6 年生 120 人も、アル・クルナのムハンマド・ジハード君一家（2 歳から 3 年間で、アンマンのがんセンターで白血病の治療。現在中学 3 年生）と Zoom で対面しました。イラク料理や



イラクの子どもの絵と文字とお母さんの刺繍×葦紙の手作りカレンダー 2021

ナツメヤシを見せてもらったり、じゃんけんゲームをしたり、言葉の壁をものともせず大いに盛り上がりました。コロナ禍で学校も閉鎖という状況の中、付き合ってくれたイラクの家族たちに感謝するばかりです。

10 年前、バグダッドのドクターに「イラクのことは自分たちで何とかする。日本人は日本のことを優先すべきだ」と背中を押されて石巻に来ました。そして、10 年が経ち、「復興から新しいステップに進んでもいいんじゃない？」と石巻の先生たちに背中を押されて、イラクと日本の子どもたちの交流が一步前進しました。

イラクと日本をつないでくれた葦紙カレンダー。2022 年版の製作は、現在進行中です。毎年 11 月頃ブログでお知らせしています。

お楽しみに！



東京事務所の新しいスタッフを紹介します！



初めまして！

これまで 20 年間、2 つの国際協力 NGO に所属し、主にカンボジア、アフガニスタンに関わってきました。その間、3 回だけですがイラクに出張したことがあり、対テロ戦争、さらにそれに覆いかぶさるように、過激派組織 ISIS がイラクの人々の暮らしを混迷させてき

た状況を見てきました。また、前職の日本国際ボランティアセンター（JVC）にいた際、JIM-NET の皆さんと共に安保法制反対の動きをつくってきたご縁もあり、入職前から JIM-NET を近しく感じてきていました。4 月からほんわかとした職場の雰囲気の中で仕事をさせてもらっています。イラク、シリアの人々が安心して暮らせる社会を現地の人たちと一緒に作っていきますので、よろしくお願いします！

長谷部 貴俊（海外事業担当）



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

特定非営利活動法人 JIM-NET（ジムネット）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4 丁目 4 番 11 号 内藤ビル 2 C

電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net 募金・サポーター会費はこちら➡

Facebook、Twitter、Instagram もぜひご覧ください。

『JIM-NET』で検索！

